



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**(共通)**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT/SSCS1161		
科目名	教養特殊講義 1		
担当教員	大八木 時広		
対象学年	1年,2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	木 1		
講義室	1402	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	総合教育		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類	文化教養		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-D〔市民的素養・市民的教養〕市民的素養と参加コミュニティに積極的な変化をもたらすために、知識・スキル・価値観・動機を動員することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP7-C〔他者理解・倫理観・公共心〕人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 CP1-D1 市民的素養と参加(30%) CP4-I1 理解・分析と読解(30%) CP4-I2 量的分析(10%) CP4-I3 情報分析(10%) CP7-C1 倫理的思考・社会認識(20%)		
教員の実務経験	特になし。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージと対応 2 進期期～ 3 発展期		
科目概要・キーワード	■危機管理学におけるグローバルセキュリティ領域の学修において、過去に国際関係で何があったかを学ぶことが未来を見通す視野を養うことにつながります。この授業では、20世紀に起こった冷戦に焦点を当て、冷戦がどのようにして生じたか、各国がどのように関わったのか、現代にどのような影響を及ぼしたのかを中心にして学修を進めていきます。その際、ヨーロッパに地域を限定することで専門科目である国際地域研究のヨーロッパ編への橋渡しを行います。 ■授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき、効果的な授業方法として、または、各授業を補完・代替するために、オンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード：冷戦の構図、デタント、冷戦終結、ヨーロッパの抱えるリスク		
授業の趣旨	■副題 冷戦下、ヨーロッパ諸国はどのように国際政治に関わり対応をしたか学修する。 ■授業の目的 20世紀の国際政治、具体的には冷戦下の世界で何がどうして起こったのか、ヨーロッパ各国がそれにどう対応したかに関する知識を身に付け、歴史的な大きな流れを把握することで、現代のヨーロッパおよび世界を理解するための手がかりを習得する。 ■授業のポイント ・冷戦がいつ、どのように起こったのかを理解し、そのことに関する基礎知識を習得する。		

	・冷戦がヨーロッパ各国にもたらした影響を把握し、それに対する各国の対応を理解することを通じて各国の国際政治に対する思考法を把握する。 ・冷戦下のリスク等に関して各国がどのような思考法の元で、どのようなリスク管理を行ったかについて批判的検討を行う。						
総合到達目標	一般目標（GIO） 冷戦がどのような背景の元にどのような要因が組み合わさって発生したのか、またヨーロッパ各国は其中でどのように反応したのか説明できる。また国際政治史の中で冷戦がどのように位置づけられ、またヨーロッパ各国にとってどのような意義がもたらされたのか説明できる。 個別行動目標（SBOs） ・第二次世界大戦の終結時点でのヨーロッパ諸国の動向について説明できる(第1回)。 ・冷戦がどのように開始され、ヨーロッパ諸国がどのように関わったのかについて説明できる(第2回)。 ・戦後のヨーロッパ統合の始動について説明できる(第3、5回)。 ・朝鮮戦争によって西ヨーロッパにもたらされたインパクトについて説明できる(第4回)。 ・第一次ベルリン危機（1948-49年）について、また西ヨーロッパにもたらされたインパクトについて説明できる(第6回)。 ・平和共存路線、第二次ベルリン危機（ベルリンの壁構築）について、また西ヨーロッパにもたらされたインパクトについて説明できる(第7回)。 ・キューバ危機について、ヨーロッパ各国の対応を含めて説明できる(第8回)。 ・インドシナ半島の冷戦について、ヨーロッパ各国の対応を含めて説明できる(第9回)。 ・1970年代のヨーロッパ状況を、統合の進展、デタントの進行を含めて説明できる(第10-11回)。 ・冷戦終結とヨーロッパ各国の動向について、ヨーロッパ連合(EU)の成立を含めて説明できる(第12-13回)。 ・冷戦後のヨーロッパについて、“ヨーロッパの拡大”、グローバリゼーションの視点を含めて説明できる(第14-15回)。						
成績評価方法	■授業参加状況（15回）40% 適用ルーブリック：D1,I1,I2,C1 （評価の観点）リアクションペーパーについて、理解の正確性、構成の適切さを中心に評価します（20%）。また授業での発言状況なども積極的に授業に参加したことと指標として評価対象とします（20%）。 （フィードバックの方法）授業冒頭などで前回のリアクションペーパー課題などについての解説・コメントという形でフィードバックを実施します。 ■レポート提出（3回・第5回、第10回、第14回の終了時にレポート課題を提示します） 60% 適用ルーブリック：C1,G1,H1,H2 （評価の観点）テーマの妥当性、構成の論理性、テーマに関する理解の正確性について評価を行います。 （フィードバックの方法）授業内、またはクラスルームを用いてレポート課題に関する解説・コメントという形でフィードバックを実施します。						
履修条件	特にありません。						
履修上の注意点	授業に積極的に参加してください。						
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ 第二次世界大戦の終結とヨーロッパ（D1,I1,I2,C1） ②授業概要 第二次世界大戦の終結時点でのヨーロッパ諸国の動向について基礎知識を習得する。 ③予習（120分） あらかじめテキスト第3章を読んでおく。 ④復習（120分） 各国の動向における共通点と相違点を理解しておく。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 冷戦の開始とヨーロッパ（D1,I1,I2,C1） ②授業概要 冷戦がどのように開始され、ヨーロッパ諸国がどのように関わったのかについて知識を習得する。 ③予習（120分） あらかじめテキスト第3章を読んでおく。 ④復習（120分） ドイツ分割占領、東欧共産化などについて理解しておく。 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ 第二次世界大戦の終結とヨーロッパ（D1,I1,I2,C1） ②授業概要 第二次世界大戦の終結時点でのヨーロッパ諸国の動向について基礎知識を習得する。 ③予習（120分） あらかじめテキスト第3章を読んでおく。 ④復習（120分） 各国の動向における共通点と相違点を理解しておく。	2	①授業テーマ 冷戦の開始とヨーロッパ（D1,I1,I2,C1） ②授業概要 冷戦がどのように開始され、ヨーロッパ諸国がどのように関わったのかについて知識を習得する。 ③予習（120分） あらかじめテキスト第3章を読んでおく。 ④復習（120分） ドイツ分割占領、東欧共産化などについて理解しておく。
回	内容						
1	①授業テーマ 第二次世界大戦の終結とヨーロッパ（D1,I1,I2,C1） ②授業概要 第二次世界大戦の終結時点でのヨーロッパ諸国の動向について基礎知識を習得する。 ③予習（120分） あらかじめテキスト第3章を読んでおく。 ④復習（120分） 各国の動向における共通点と相違点を理解しておく。						
2	①授業テーマ 冷戦の開始とヨーロッパ（D1,I1,I2,C1） ②授業概要 冷戦がどのように開始され、ヨーロッパ諸国がどのように関わったのかについて知識を習得する。 ③予習（120分） あらかじめテキスト第3章を読んでおく。 ④復習（120分） ドイツ分割占領、東欧共産化などについて理解しておく。						

3	①授業テーマ ヨーロッパ統合の開始（D1,I1,I2,C1） ②授業概要 戦後のヨーロッパ統合運動、シューマン・プランからヨーロッパ統合に実際に着手するながれについて知識を習得する。 ③予習（120分） あらかじめテキスト第11章を読んでおく。 ④復習（120分） シューマン・プランなどの意義について理解しておく。
4	①授業テーマ 朝鮮戦争がヨーロッパに及ぼした影響（D1,I1,I2,C1） ②授業概要 朝鮮戦争によって冷戦がアジアで熱戦化したことのインパクトについて、西ヨーロッパにおける防衛統合構想、西独再軍備構想について知識を習得する。 ③予習（120分） あらかじめテキスト第7、11章を読んでおく。 ④復習（120分） ヨーロッパ防衛共同体の構想の背景について理解しておく。
5	①授業テーマ ヨーロッパ防衛共同体構想後のヨーロッパ統合（D1,I1,I2,C1） ②授業概要 ヨーロッパ防衛共同体の構想後、経済統合へシフトしたヨーロッパ統合について、ヨーロッパ経済共同体（EEC）などについて知識を習得する。第一回レポート課題を提示する。レポート課題に関するフィードバックは授業内またはクラスルームを用いて行う。 ③予習（120分） あらかじめテキスト第11章を読んでおく。 ④復習（120分） ヨーロッパ経済共同体創設の背景について理解しておく。
6	①授業テーマ 第一次ベルリン危機（D1,I1,I2,C1） ②授業概要 第一次ベルリン危機（1948-49年）がどのように発生し、それはヨーロッパ諸国、とりわけ西ヨーロッパ諸国がどのように対応したかについて知識を習得する。 ③予習（120分） あらかじめテキスト第5章を読んでおく。 ④復習（120分） 第一次ベルリン危機がヨーロッパにとってどのような意義があったのかについて理解しておく。
7	①授業テーマ 平和共存路線から第二次ベルリン危機へ（D1,I1,I2,C1） ②授業概要 平和共存路線とはどのようなものであったのか、第二次ベルリン危機はどのようなものであったのかについて知識を習得する。 ③予習（120分） あらかじめテキスト第10、15章を読んでおく。 ④復習（120分） 冷戦下におけるベルリンの壁構築の意味について理解しておく。
8	①授業テーマ キューバ危機とヨーロッパ（D1,I1,I2,C1） ②授業概要 キューバ危機とは何か、ヨーロッパ諸国がどう対応したかについて知識を習得する。 ③予習（120分） あらかじめテキスト第16章を読んでおく。 ④復習（120分） キューバ危機の背景について理解しておく。
9	①授業テーマ ベトナム戦争とヨーロッパ（D1,I1,I2,C1） ②授業概要 インドシナ半島とヨーロッパの関わり、ベトナム戦争の概要、ヨーロッパ諸国の反応について知識を習得する。 ③予習（120分） あらかじめテキスト第8、17章を読んでおく。

		④復習（120分） ドゴールのベトナム戦争批判について理解しておく。
10		①授業テーマ 1970年代のヨーロッパ（D1,I1,I2,C1） ②授業概要 1970年代のヨーロッパ状況を、統合の状況を中心に知識を習得し、石油ショックがどのようにヨーロッパに影響を及ぼしたかについて取り上げる。第二回レポート課題を提示する。レポート課題に関するフィードバックは授業内またはクラスルームを用いて行う。 ③予習（120分） あらかじめテキスト第18章を読んでおく。 ④復習（120分） 中東とヨーロッパの関係について理解しておく。
11		①授業テーマ ヨーロッパのデタント（D1,I1,I2,C1） ②授業概要 ヨーロッパのデタントの試み（東方外交、全欧安保協力会議）について知識を習得するとともに、米ソデタントと比較をする。 ③予習（120分） あらかじめテキスト第18章を読んでおく。 ④復習（120分） について理解しておく。
12		①授業テーマ ヨーロッパ連合（EU）への道（D1,I1,I2,C1） ②授業概要 ヨーロッパ連合（EU）について基礎知識を習得し、EU成立の道のりを取り上げる。 ③予習（120分） あらかじめテキスト第21章を読んでおく。 ④復習（120分） 単一欧州議定書からマーストリヒト条約締結に至る流れについて理解しておく。
13		①授業テーマ 冷戦終結とヨーロッパ（D1,I1,I2,C1） ②授業概要 ソ連の新思考外交、東欧市民革命を取り上げ、冷戦終結について知識を習得する。 ③予習（120分） あらかじめテキスト第20、21章を読んでおく。 ④復習（120分） 新思考外交が冷戦終結に及ぼした影響について理解しておく。
14		①授業テーマ “ヨーロッパの拡大”（D1,I1,I2,C1） ②授業概要 NATOやEUの拡大について知識を習得する。第三回レポート課題を提示する。レポート課題に関するフィードバックは授業内またはクラスルームを用いて行う。 ③予習（120分） あらかじめテキスト第20、21章を読んでおく。 ④復習（120分） NATOやEUの拡大の意義について理解しておく。
15		①授業テーマ グローバリゼーション下のヨーロッパ（D1,I1,I2,C1） ②授業概要 グローバリゼーション下のヨーロッパの状況について、ヨーロッパが抱えるリスク要因を含めた知識を習得する。 ③予習（120分） あらかじめテキスト第21章を読んでおく。 ④復習（120分） 現代ヨーロッパが抱えるリスク要因について理解しておく。
関連科目		特にありません。
教科書		松岡 完『20世紀の国際政治～二度の世界大戦と冷戦を経て（第三版）』同文館、2014年、3,500円＋税。
参考書・参考URL		開講時に指示します。

連絡先・オフィスアワー	■オフィスアワー：火曜日3限目(608研究室)。あらかじめメールで予約を取ってください。 ■連絡先：ooyagi.tokihiro@nihon-u.ac.jp
研究比率	



Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.